

近藤 聡

Akira Kondo

田口佳史

Yoshifumi Taguchi

人間
邂逅

誰も見ていないとき、身を止せるか

東京・日比谷SEY wavespace Tokyo, J.P.



西川修一=構成 宇佐美雅浩=撮影

初

めてお目にかかったのは2013年、別の会社に在籍していたときです。会社の急激な成長とともに人員も増え、それと並行してハラスメントやパソコンの紛失といった問題が立て続けに起こっていました。しかし、ルールの厳格化やコンプライアンス上の対応だけではどうも解決できなかったんです。

そこで、田口先生に師事していた同僚を介して月1回、20人程度の役員が教えを乞うことになりました。

コンサル会社では見かけない「起立・礼」から始まり、先生が採り上げた『論語』の章句を皆で唱和した後、各人が自分なりの解釈を答え、さらに先生に深い洞察をお話し頂き、問答を行う。2時間の予定がしばしば3時間、4時間に及び、約2年半で『論語』全499章句を読み終えました。

「この場で受講者の人間としての蓄積が露わになり、お互いの人柄、感覚や人生観が理解でき、一つの経営組織として完璧になつていく」と先生は仰いましたが、私の中に一番残っている言葉は、『論語』とともに教えて頂いた『大學』の中にある「慎独」です。誰も見ていないときにきちんと身を正せるかが重要だ、という意味で、すごく刺さった。これは経営と私個人の言動の両方に当てはまります。受講後、問題が起くる頻度はほとんどなくなっていました。

3年前、今の職場に移ってから、先生のことを思い出しつつ授業ノートをずっと見返しています。今後も折に触れてご意見をうかがいたいと思っています。(近藤)